

県議会議員

あらい、絹世の「磯っ子」レポート

県政をもっと身近に



<http://www.araikinuyo.jp>

身近で「氷上の格闘技」…全試合観戦無料 1月28日から横浜で国体アイスホッケー競技

神奈川県内では、2019年9月から11月にかけて開催されるラグビーW杯2019日本大会の決勝戦が行われ、2020年の東京オリンピック(7月24~8月9日)ではセーリング、野球・ソフトボール、サッカー競技の会場になるなどスポーツのビッグイベントが相次いで展開されます。このさきがけとして、2018年1月28日から2月1日まで横浜で第73回国民体育大会冬季大会のアイスホッケー競技が行われます。2018年の国体(秋季大会は福井県)の皮切りとして開催される冬季大会はアイスホッケーとスケート(山梨)が1月下旬から行われるのに続きスキー(新潟)が2月下旬から実施されます。近年はフィギュアスケート、カーリングなど冬季のスポーツにも関心が高まっていますが、2月1日からは韓国で第23回冬季オリンピックの平昌大会も開かれます。国体のアイスホッケー競技は全試合が観戦無料となっており成年男子、少年男子の部とも開催県チームとして地元神奈川勢が出場します。



立派なスケートリンクがある神奈川県内で冬季大会の競技が実施されるのは1964年のスケート以来54年ぶりです。今回は要望に応じてアイスホッケー競技の会場を引き受け、県が中心となって準備に取り組んでいます。全試合は新横浜駅近くのKOSÉ新横浜スケートセンター(観客席1400)と東神奈川・反町駅近くの横浜銀行アイスアリーナ(同300)の2カ所で行われます。出場するのは成年男子の部がブロック予選を勝ち抜いた26都道府県チーム、少年男子の部は13チーム(女子のチームはあるが大会はない)。

公募で決まった大会スローガンは「輝け!氷上の闘い!」。大会実行委事務局=県スポーツ課内 ☎045-285-0731=では神奈川のマスコット「かながわ金太郎」を基にした大会マスコットをつくり、これをあしらったポスターやチラシを配って、競技会の盛り上げを図っています。

第73回国民体育大会冬季大会アイスホッケー競技会
氷闘!かながわ・よこはま冬国体



コレが言いたい!

温暖な地にある神奈川県ですが冬のスポーツは盛んで、アイスホッケーの登録選手数は北海道、東京に次いで全国3位。国体での成績もここ数年、たびたび8位以内に入賞しており、2016年は成年男子が2位に輝いています。今回の国体アイスホッケー競技では神奈川県チームが出場しますので、身近で繰り広げられる氷上の闘いに親しんでみてはどうでしょう。

今月のひと言

宮ヶ瀬湖畔園地では、12月25日まで高さ30メートルを超えるモミの木のジャンボクリスマスツリーを始め園内がイルミネーションで彩られます。また、秦野市の秦野戸川公園でも、12月31日まで「風の吊り橋」のライトアップが行われます。

磯子あれ? これ?

後期の根岸湾埋め立て

昭和28(1953)年、当時の助役が磯子区の漁協総会の席で「根岸湾の埋め立てに際しては、事前に漁業関係者と協議するとともに、現時点では埋め立ての計画は無い」と発言したにもかかわらず、横浜市が昭和31(1956)年9月に発行した「横浜国際港都建設計画概要説明書」では、根岸湾埋め立て計画がほぼ決定されたこととなっています。これにより漁業関係者から「現実とは逆の状況である。埋め立てが実行されると自分たちの生活の死活問題にあたる」として埋め立て反対運動に立ち上がるものが続出しました。

また、続けて昭和31(1956)年11月に「国鉄根岸線開発計画其の一、根岸湾埋め立て基本計画」が市当局から発表されました。すると、漁場の保護や周辺環境の悪化を心配する声が区民の間からも聞こえるようになりました。

その後、市当局と漁業関係者との間で何度も話し合いの場が設けられた結果、市側が漁業補償をすることで決着し、昭和32(1957)年12月に調印が交わされ、昭和34(1959)年2月に埋立て起工式がおこなわれました。根岸湾埋め立ての歴史を記した記念碑がJR根岸駅前と森三丁目にある森町公園内に建立されています。



森町公園内の記念碑

参考資料:磯子の史話

活動報告

11月6日から8日まで、副委員長を務める社会問題対策特別委員会で県外調査を行いました。平成26年8月に発生した広島市の土砂災害の現場を訪れ防災対策、愛知県の藤田保健衛生大学病院のAIを活用し糖尿合併症を予測するシステムや、豊明団地で行なっている「ロボティクススマートホーム」の実証研究施設と地域包括ケアの取組について調査を行いました。また、高齢者が新しい知識や教養・技術を身につけ、地域の担い手として活動できるよう支援する場「滋賀県レイカディア大学」を訪れました。



広島市土砂災害現場。砂防ダムを建設中



地域包括ケアシステム ふじたまちかど保健室



ロボティクススマートホーム



滋賀県レイカディア大学

あらい絹世プロフィール

- 昭和43年3月8日 横浜市磯子区生まれ
- 横浜雙葉小・中・高等学校卒業
- 明治学院大学社会学部社会福祉学科卒業
- 日商岩井(株) / (株)メタルワン
- 自民党かながわ政治大学12期生
- 平成27年4月 県議会議員2期目当選
- 環境農政常任委員会委員
- 社会福祉審議会委員
- 社会問題対策特別委員会副委員長
- 政務調査会副会長

